

携帯の通信網を使うため、情報漏えいの危険性も低い

# 三菱総研DCSとドコモ



# 携帯網使い社内接続

システム開発の三菱総研DCS(東京・品川、木村高志社長)はNTTドコモと共同で、携帯電話を使った在宅勤務システムを発売する。サーバー側で集中して情報を処理・保存し、端末にデータを残さないシンクライアントシステムを低価格で実現した。既存の携帯電話とノートパソコンを使い、導入に必要な費用を専用端末を使うシステムの6割程度に抑えた。携帯電話の通信網を活用し機密性も高めた。

## 在宅勤務システム 導入費6割に

9月から販売する予定のシステムは携帯電話の通信網を使って業務ソフトが入ったサーバーに接続して使う。携帯電話に専用のマイクロSDカードを差し込むとカード内の基本ソフト(OS)「FKEY OS」が起動する。パソコンに入ったOSやハードディスクは使われない。顧客情報や決算資料など重要な情報を閲

覧・作成してもパソコン内には残らない。SDカードはNTTドコモが販売し、システム開発は三菱総研DCSが担う。FKEYは通信会社ベンチャーの応用電子(東京・品川、矢野正博社長)が今回のシステム向けに開発したシンクライアント向けのOS。来春にはタブレット端末にも対応する。

インターネットに接続せず、NTTドコモの携帯電話網の中で情報をやり取りするため、情報漏えいの危険性が低いのも特徴のひとつだ。また、サーバーとの接続時に携帯電話に付与された固有の製造番号を使って認証するため、盗難時には利用許可を解除するだけで安全を保てる。

網)と比べて伝送速度が遅い。このため容量の大きな情報もやり取りできるように携帯電話向けのデータ圧縮技術を開発し、FKEYに搭載した。東京電力福島第1原子

力発電所の事故に伴う節電対策で、在宅勤務を推奨する企業が増えている一方で、情報漏えいへの懸念も高まっている。このシステムなら保有しているノートパソコンなど

の端末を活用できるため、コストを抑えられる。価格は1000人利用でシステム構築費を含めて3000万円から。2012年3月までに3億円の売り上げを目指す。